

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
中間配当：毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 照会先 0120-78-2031（フリーダイヤル）
- 同 取 次 窓 口 中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
- 単 元 株 式 数 100株
- 証 券 コ ー ド 7266（東京・名古屋証券取引所市場第一部）

住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

* 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

ホームページのご紹介

当社及びグループ会社の概要・財務・製品・採用・決算等の最新情報につきましては、ホームページにてご案内しております。

ぜひ、下記アドレスまでアクセスしていただきますようご案内申し上げます。

URL <http://www.imasen.co.jp/>



株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7266

いいかぶ 検索 Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com



この報告書は、環境に配慮し、ベジタブルインクを使用しております。



IMASEN REPORT 11

第75期第2四半期報告書

2011.4.1-2011.9.30



株式会社今仙電機製作所

〒484-8507 愛知県犬山市宇柿畑 1 番地
TEL (0568) 67-1211 (代表)



株主の皆様へ

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
第75期第2四半期の業績について、ご報告させていただきます。



代表取締役会長

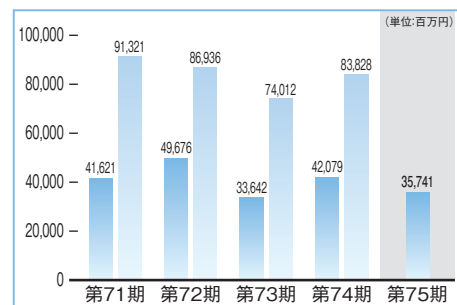
代表取締役社長

若山 恭二 藤掛 治

■第2四半期 決算ハイライト

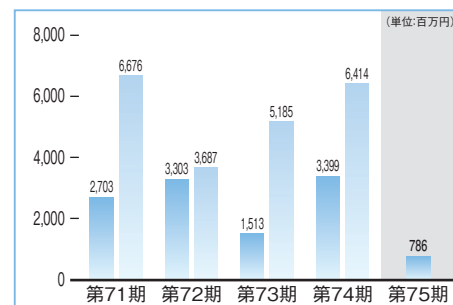
震災による自動車

売上高 357億円
前年同期比 15.1%減少

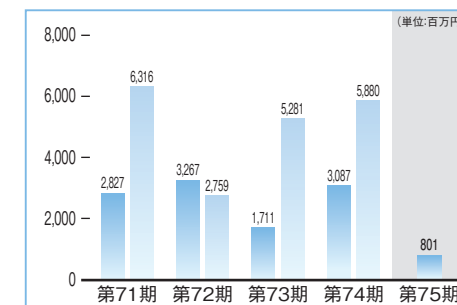


減産の影響により、減収減益となりました。

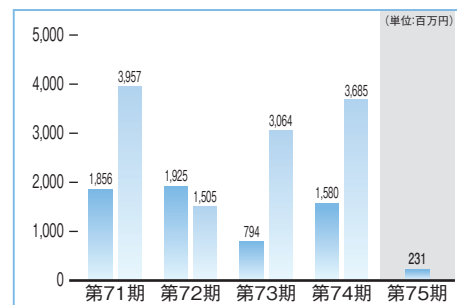
営業利益 7億円
前年同期比 76.9%減少



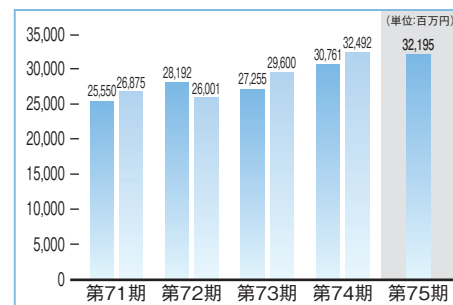
経常利益 8億円
前年同期比 74.1%減少



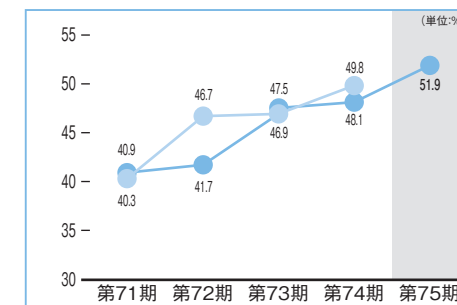
純利益 2億円
前年同期比 85.3%減少



純資産 321億円
前期末比 0.9%減



自己資本比率 51.9%
前期末比 2.1ポイント増加



経営理念

想像力を豊かにし、
これをより安く、

これまでに存在しない全く新しい製品・サービスを創造し、
より速く、世の中に提供することで、人々の豊かな暮らしに貢献いたします。

Contents

株主の皆様へ	1
第2四半期決算ハイライト	1
トップインタビュー	3
トピックス	6
決算の状況（連結）	7
事業別営業の概況	9
会社の概況	10
株式情報	10



特集企画 「IMASENを知る」 第7弾

トップインタビュー

藤掛社長が開発本部長として語る『今後のIMASENの開発方針について』



代表取締役社長

藤掛 治 Osamu Fujikake

1955年、岐阜県生まれの56歳。
岐阜大学工学部卒業後、株式会社今仙電機製作所に入社。
2011年6月に代表取締役社長に就任し、開発本部長も兼務。
趣味は将棋・囲碁。
座右の銘は「温故知新」。

Q. 社長自らが開発本部長を兼務されたのは何故ですか？

■ これまでの経験を活かし、世代を超えた製品開発を行いたい

入社時からシートデバイスをメインに製品開発に携わってきました。開発部門は人の命に関わる重大な仕事であり、その製品品質は安全であってあたり前の世界です。そのような責任のある部門に長年おりましたので、その難しさ、そして自分が設計した製品が世に生み出される喜びも知っております。これまでに得た色々な経験を今後の開発に活かせるのではないかと考え、今回の開発本部長を兼務することといたしました。開発本部長を兼務することで、自ら新しい製品開発をリードしていきたいと考えています。

こうして開発現場の近くに身を置くことで、あらためて情報収集や組織のムードづくりが大事だと感じております。開発部門が世代を超えて自由に話し合えるような職場を築き、良い製品が生まれてくる環境作りにも取り組んでいきたいと思っています。

Q. IMASENにおける開発の強みは？ 今開発に必要とされているものは？

■ 「お客様第一」の精神とメカトロニクス技術による提案が強み

IMASENの強みとして、1つには「お客様第一」という精神が全社的に上から下まで浸透していることが言えます。パートナーとして、期待を裏切らないという姿勢がお客様に評価され、これまで成長することができたものと考えます。

また機構技術と電子技術を融合したメカトロニクス技術を有しており、その技術力を強みとしております。カー

メーカー、シートメーカーに対して幅広く提案ができる点で評価を頂いており、その点においては他社に勝っているものと考えております。

■ 製品ベンチマークや事前企画を重視した開発

世界の自動車トレンドを見ると、中国やアメリカなどは大型車が依然として主流ですが、一方で、新興国では移動手段の一つとしてクルマが位置づけられており小型車の販売が伸びています。日本でも燃費向上など軽自動車が目立っていることもあり、当社でも小型車・軽自動車における市場シェアを拡大させたいと思っています。

そのため他社の開発動向のベンチマークを行い、各社の製品の現状把握をし、比較した上で新製品の開発をすることとしております。これにより、新しい発想や差別化がされやすく、開発目標値も立て易いと考えています。また社員には、開発前の企画段階で他社と比較して勝負できる見通しを立て、目標値と達成手段を明確にした上で製品開発をスタートさせることを指示しています。今後も明確な開発ビジョンを持って製品化を進めていきたいと思っています。

■ グローバルで勝ち残るため、スピードある開発力が必要不可欠

また昨今グローバル競争が進み、製品開発は従来にも増してスピードが要求されています。自動車業界全体で開発スタートから量産開始までのリードタイムを短くする動きがより一層加速しており、これに対応するためには、日頃からお客様に喜んでいただける高性能な製品を見極め、早い段階から研究開発をする必要があります。開発の更なるスピードアップを命題として取り組んでおります。

Q. 開発スピードアップのため、現在取り組まれていることはありますか？

■ 組織の変更とチーム体制による開発

まず開発効率化の施策の一つとして、開発関連部門の組織変更を実施いたしました。

これまで別々であった初期開発に関わる部門（技術企画部門、試作部門、試験部門）を1部門に統合し、技術企画部という名称で新設しました。

製品開発の企画から、量産開始に向けた試作・試験までを一貫して管理することで、新製品の品質玉成をスムーズに実現し、市場投入のスピードアップを目指しています。

また開発体制としましては、開発作業で仕事が遅延し不具合などの問題が起きた場合に、解決に時間がかかることがあります。1人で悩むのではなく、早い段階でチームを構成し、問題点を洗い出し、解決していく場が必要だと思います。今後はそのような場を設け、安全で高品質な製品を社員一丸となって開発していきたいと考えています。

■ 試験設備の拡充

研究開発に関する設備面の充実といたしましては、本社に隣接する名古屋工場エリア内の既存の試験棟に併設する形で新たに試験棟を設置し、8月より稼動を開始いたしました。新法規に対応するためのランプの配光試験室の新設を主体としておりますが、あわせて工場内に散在しておりました各種試験機能を集約化することで、試験・検査作業の効率化、製品の開発スピードの向上を目指しています。



Q. 新製品の開発状況について聞かせて下さい

■ 世界最小形状の小型ラウンドリクラーやウインドレギュレータ

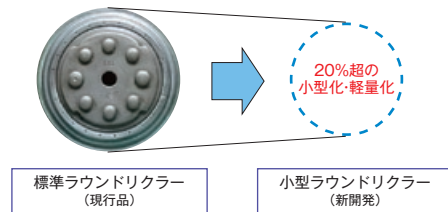
シートのリクライニング機構に装備される小型ラウンドリクラーはグローバル的にも競争力があると考えています。小型化により大幅な軽量化を達成しつつ、従来品と同等の強度を維持しております。競合他社も取り組む中で、自社の調べではIMASENの製品が世界最小形状の小型リクラーであるため、今後のシェア拡大に期待しています。

またウインドレギュレータについては、ここ数年受注が落ちており非常に残念です。しかし、現在ウインドレギュレー



々専属の設計者が研究開発し、レベルの高いモノができ上がります。今後のウインドレギュレータの巻き返しに向けて積極的な開発及び営業活動を推進していきたいと考えています。

■小型ラウンドリクラーの開発完了



Q. これからのグローバル競争に勝ち進むため、IMASEN開発部門の今後の方向性について教えてください

■ 国際競争力のある製品開発を進め、日本のモノづくりを守る

これからの競争相手は日本国内だけでなく、欧米や中国・韓国などのアジア、そして新興国のメーカーです。海外部品メーカーの動きを見ると、買収することで企業規模を拡大させ、脅威となっています。また、コストだけを考慮すると現地メーカーに勝つことは困難です。グローバルで勝ち抜くためには、原材料や部品の現地調達化の推進は勿論のこと、現地メーカーとの連携も検討しております。より一層、製品コストを意識しつつ、高品質な製品作りをしていく必要があります。今回その戦略の一環として、開発部門とは別に購買部門や品質保証部門などに海外向け業務を専門に行う部署を新設しました。これらの部門と海外グループ会社を連携させ、グループ内のコスト把握を行うと共に品質面の向上も目指していく考えています。そして、今ある海外拠点を有効活用させつつ、最適化した生産拠点を決定し投資していくことで国際競争力を高めていきたいと思っています。

いかにグローバル化が進もうとも**IMASEN**はあくまで日本の企業であり、日本のモノづくりを守っていく責任があると思います。当社の独自の技術を大切にしながら、日本のモノづくりの強さや良さを守っていききたいと思います。そして、ひとつでも多くのオンリーワンの製品を開発し成長し続ける企業でありたいと考えています。

トピックス

■「第38回国際福祉機器展2011」に出展

10月5日から10月7日まで東京ビッグサイトで開催された「第38回国際福祉機器展2011」に(株)今仙電機製作所及び(株)今仙技術研究所が共同出展しました。

(株)今仙技術研究所からは、乗り心地性を向上させた最新の電動車いす及び歩行支援機、義足（LAPOCシステム）を展示しました。

(株)今仙電機製作所からは、今回初めて福祉車両製品を出展しました。

電動車いすに乗ったまま自動で車へ乗り込める未来型の提案製品を展示し、会場では大変好評・反響をいただきました。

多くのユーザー様からのお声を活かして、**IMASEN**グループとして福祉現場のニーズに応えた製品の開発に努め、安心・安全・快適な暮らしをサポートしていきます。



【IMASENグループ展示ブース】



【未来型福祉車両製品の展示】

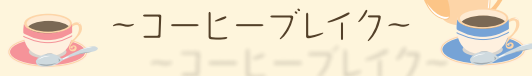
■「The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011」に出展

IMASENは、12月2日から12月11日の期間、東京ビッグサイトに開催中の「The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011」に出展しております。

今回は、「メカトロニクスで躍進する**IMASEN**！」をブースコンセプトとして掲げ、**IMASEN**の手掛ける自動車部品を展示しております。より多くの皆様に幅広い製品群を知っていただき、当社の総合技術をアピールすることを目指したブース作りとなっております。



【IMASENブースイメージ】



Q. ここで少し社長ご自身の開発部門時代の経験をお聞かせ下さい

■ 信念を持って製品開発に取り組み、多くの社内外の方々に支えられた26年

振り返ると、1978年から2004年までの26年間、**IMASEN**が手掛けるほぼすべてのお客様の開発に携わってきました。よく覚えているのは入社して5年目のこと、新規性に富んだシートアジャスタの開発を手がけることになったのですが、本来の担当であるリクライニング機構の設計以外に前例のない機構製品を同時に多く手掛けることになり、製図にとっても苦労しました。当時から自分の信念を曲げずに開発をしておりましたので他部署の上司とよく喧嘩をしたものです。しかし最後には、その信念や思いを理解していただくことができ、意思疎通が図れ、良い仕事をすることができました。

多くの製品開発の掛け持ちをして多忙な時期もありましたが、社内の諸先輩だけでなく、お客様やお取引先様など社外の方々にも支えられ、数々の困難を乗り越えることができ感謝しております。

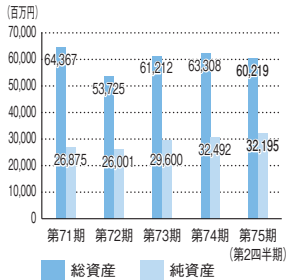


■決算の状況（連結）

四半期連結貸借対照表				(単位：百万円)			
年度別	前第2四半期	当第2四半期	前連結	年度別	前第2四半期	当第2四半期	前連結
科目	連結会計期間末 (平成22年9月30日)	連結会計期間末 (平成23年9月30日)	会計年度末 (平成23年3月31日)	科目	連結会計期間末 (平成22年9月30日)	連結会計期間末 (平成23年9月30日)	会計年度末 (平成23年3月31日)
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	37,813	34,388	38,269	流動負債	23,160	21,047	23,982
現金及び預金	9,003	8,149	9,825	支払手形及び買掛金	13,632	10,874	12,998
受取手形及び売掛金	20,994	18,045	19,691	1年内償還予定の社債	—	500	500
たな卸資産	5,481	5,340	5,963	短期借入金	2,633	2,523	3,332
その他	2,335	2,855	2,791	未払法人税等	1,473	419	770
貸倒引当金	△2	△3	△3	賞与引当金	1,090	1,156	1,147
				その他	4,329	5,574	5,233
固定資産	24,317	25,831	25,038	固定負債	8,209	6,977	6,833
				社債	3,500	3,000	3,000
有形固定資産	20,838	22,557	21,196	長期借入金	1,512	576	601
建物及び構築物（純額）	6,923	7,154	7,057	退職給付引当金	1,653	1,262	1,454
機械装置及び運搬具（純額）	5,913	5,735	5,621	その他	1,542	2,138	1,776
その他（純額）	8,001	9,667	8,517	負債合計	31,369	28,024	30,815
無形固定資産	366	349	344	(純資産の部)			
その他	366	349	344	株主資本	30,321	32,299	32,265
投資その他の資産	3,113	2,924	3,498	資本金	4,548	4,548	4,548
投資有価証券	2,791	2,643	3,280	資本剰余金	4,281	4,281	4,281
その他	356	316	253	利益剰余金	21,600	23,578	23,544
貸倒引当金	△35	△35	△35	自己株式	△108	△108	△108
資産合計	62,131	60,219	63,308	その他の包括利益累計額	△461	△1,039	△713
				その他有価証券評価差額金	868	567	952
				為替換算調整勘定	△1,330	△1,606	△1,665
				少数株主持分	902	934	939
				純資産合計	30,761	32,195	32,492
				負債純資産合計	62,131	60,219	63,308

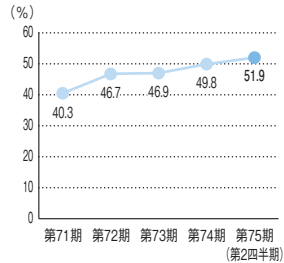
POINT① 総資産・純資産

売上の減少に伴い、売掛債権等が減少したことから、総資産は60,219百万円(前期末比3,088百万円の減少)となりました。純資産につきましては、市況の株価低迷により、その他有価証券評価差額金が減少し、32,195百万円（前期末比297百万円の減少）となりました。なお、1株当たり純資産は1,740.81円となっております。



POINT② 自己資本比率

総資産の圧縮により、自己資本比率は前期末から2.1ポイントの改善となる51.9%となりました。

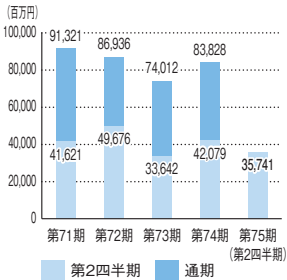


■決算の状況（連結）

四半期連結損益計算書				(単位：百万円)			
年度別	前第2四半期	当第2四半期	前連結	年度別	前第2四半期	当第2四半期	前連結
科目	連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	連結累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	科目	連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	連結累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	POINT③ 42,079	35,741	83,828	営業活動によるキャッシュ・フロー	POINT⑤ 1,748	2,341	5,635
売上原価	35,111	31,632	70,328	投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,104	△2,450	△3,171
売上総利益	6,968	4,108	13,500	財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,106	△1,576	△2,019
販売費及び一般管理費	3,569	3,322	7,086	現金及び現金同等物に係る換算差額	△70	8	△202
営業利益	POINT④ 3,399	786	6,414	現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△533	△1,677	242
営業外収益	150	138	271	現金及び現金同等物の期首残高	9,254	9,496	9,254
営業外費用	462	123	805	現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	8,720	7,818	9,496
経常利益	3,087	801	5,880				
特別利益	3	0	53				
特別損失	57	13	167				
税金等調整前四半期（当期）純利益	3,033	788	5,766				
法人税、住民税及び事業税	1,558	432	2,063				
法人税等調整額	△138	99	△54				
少数株主損益調整前四半期（当期）純利益	1,613	256	3,758				
少数株主利益	33	25	72				
四半期（当期）純利益	1,580	231	3,685				

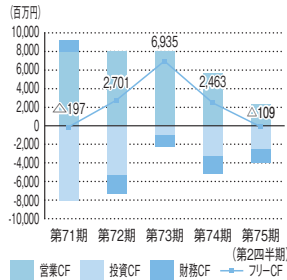
POINT③ 売上高

東日本大震災により、国内外で自動車生産が大幅に減少したことから、前年同期比で減収となっております。



POINT⑤ フリーキャッシュ・フロー

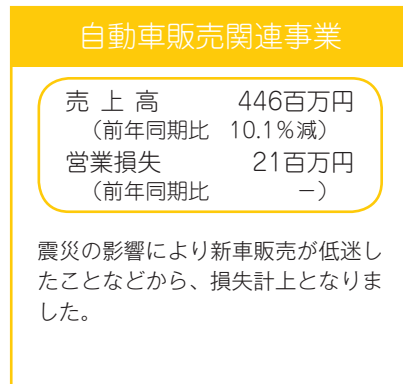
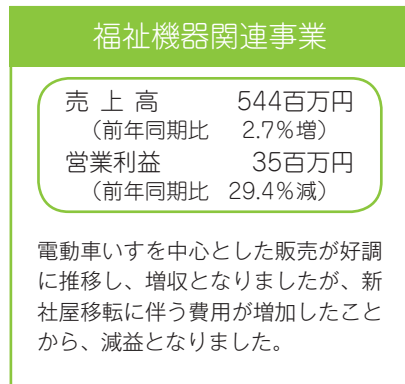
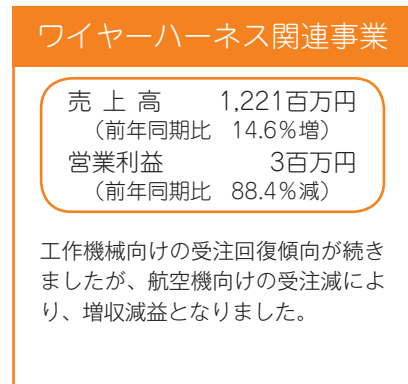
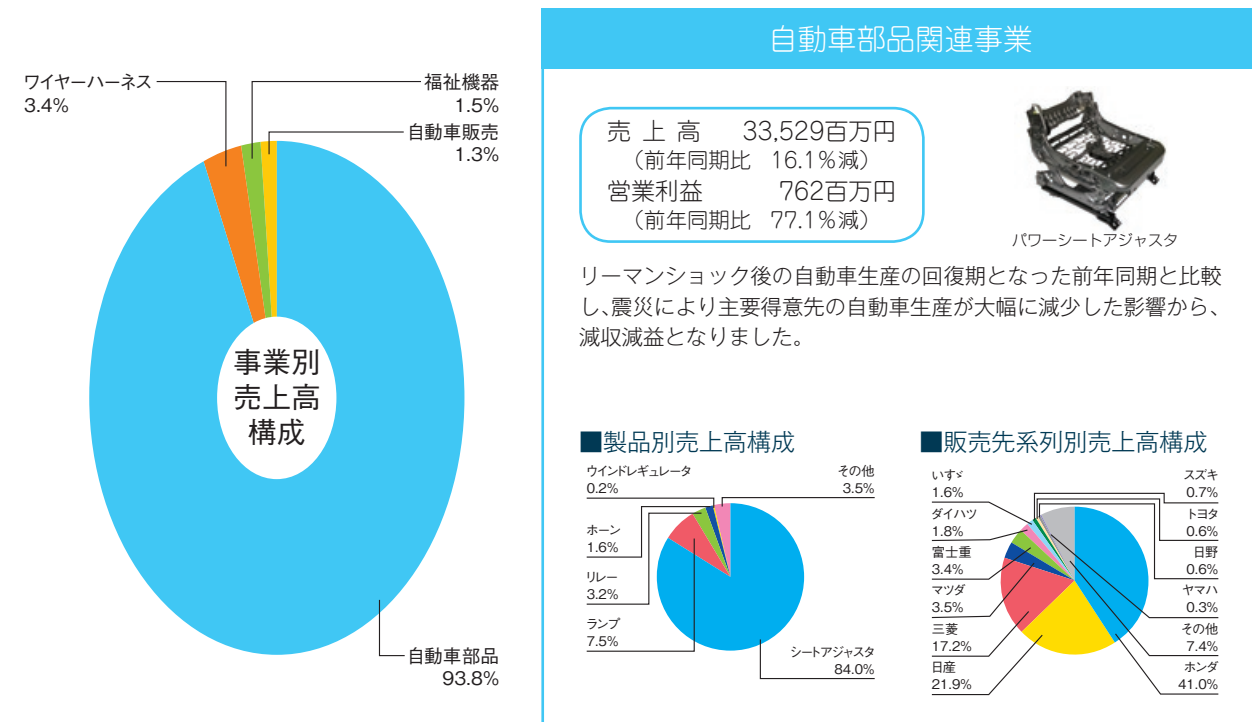
今後の新規受注に備えた設備投資を継続的に実施したことなどから、フリーキャッシュ・フローは▲109百万円となっております。





■事業別営業の概況

主力の自動車部品関連事業において震災による収益への影響が大きくなっています



■会社の概況 (平成23年9月30日現在)

■会社の概要

社名	株式会社 今仙電機製作所 Imasen Electric Industrial Co.,Ltd.
設立	昭和14年2月1日
資本金	4,548百万円
主な事業内容	自動車用機構製品及び電装製品の製造・販売
従業員数	3,916名(連結)
本社所在地	愛知県犬山市字柿畑1番地
営業所	東京支店／広島支店／栃木支店
工場	名古屋工場／岐阜工場／八百津工場 岡山工場／春里工場／可児工場／広島工場 (株式会社九州イマセン)
海外拠点	台湾／フィリピン／米国／ 中国／タイ／インド

■株式情報 (平成23年9月30日現在)

■株式の状況

発行可能株式総数 49,195,000株
発行済株式の総数 18,172,737株
株主数 4,011名

■大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
本田技研工業(株)	1,066	5.93
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	800	4.45
IMASEN取引先持株会	761	4.24
ヤマハ発動機(株)	613	3.41
(株)三菱東京UFJ銀行	605	3.36
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	580	3.23
今仙電機従業員持株会	521	2.90
(株)第三銀行	505	2.81
ザチースマンハッタンバンクエスイロンドン	498	2.77
第一生命保険(株)	426	2.37

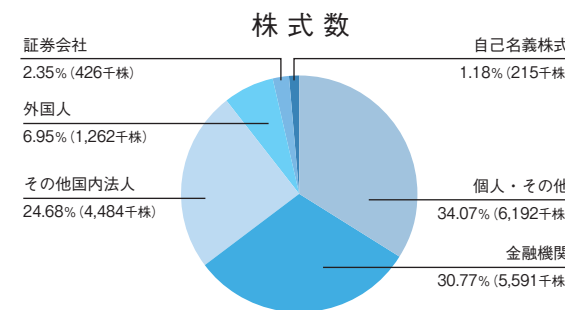
(注) 持株比率は自己株式(215千株)を控除して計算しております。

■役員

代表取締役会長	若山 恭二	取締役	亀山 弘昌
代表取締役社長	藤掛 治	取締役	中澤 哲則
専務取締役	梅田 敏雄	取締役	足立 隆
常務取締役	植松 俊夫	取締役	佐々木 鉄二
常務取締役	渡邊 和彦	常勤監査役	大澤 慶文
常務取締役	中島 良紀	常勤監査役	長屋 三平
常務取締役	山田 博	監査役	宮澤 俊夫
取締役	阿部 隆行	監査役	長谷川 周義

(注) 監査役尾関誠治氏は平成23年9月4日に逝去され、退任し、補欠監査役の長谷川周義氏が、同日付で監査役に就任いたしました。

■所有者別分布状況



■配当金の推移

